

第3回 町会・自治会のあり方と区との協働に関する調査研究委員会（会議記録）

□日時 2014年12月5日（金）10時～12時

□場所 品川区役所本庁舎5階第5委員会室

□参加者

<学識者>

委員長 名和田 是彦（法政大学法学部教授）

副委員長 大島 英樹（立正大学法学部教授）

<町会・自治会関係者>

副委員長 近江 清光（品川区町会連合会会長・大崎第一地区町会自治会連合会会長）

委員 保科 義和（品川区町会連合会副会長・品川第二地区町会連合会会長）

委員 鶴見 一三（品川区町会連合会副会長・大井第二地区連合町会会長）

委員 関 昭一（品川区町会連合会副会長・荏原第二地区町会連合会会長）

委員 千葉 雅雄（品川区町会連合会副会長・荏原地区第四連合町会会長）

<品川区>

委員 桑村 正敏（副区長）

委員 山田 恵美子（副区長）

委員 中川原 史恵（地域振興事業部長）

委員 榎本 圭介（健康福祉事業部長）

委員 松代 忠徳（防災まちづくり事業部長）

<事務局>

企画部行財政改革担当課長（柏原）、地域振興事業部地域活動課長（久保田）、企画部企画担当主査（狩野）、企画部企画担当主査（勝亦）、地域振興事業部地域活動課地域支援係長（安藤）、㈱ダイナックス都市環境研究所・NPO法人横浜プランナーズネットワーク（山本、北坂、内海、杉野）

□次第

1. 開会
2. 第2回の議事要旨
3. 町会・自治会会長アンケートについて
4. 意見交換
5. その他
6. 閉会

（会議要旨）

1. 開会

2. 第2回の議事要旨

説明者：事務局（品川区）

○議事要旨について

- ・町会・自治会アンケートの内容について議論した
- ・アンケートの項目にいれなかった項目についてはヒアリング等でおぎなうこととした
- ・委員の名前は公開しない。個人の特定される情報も整理して公開する
- ・自分の発言の趣旨と違うところがあればご指摘いただきたい

3. 町会・自治会 会長アンケートについて

説明者：事務局

○アンケートの趣旨について

- ・アンケートの調査票は、前回委員会で頂戴したご意見をふまえて修正したものである

- ・アンケートは、地域センターを經由して自治会にお願いした
- ・12月4日（木）時点の回答率は70.5%である
- ・本日のアンケートのまとめについては、先週の回答率50%時点のまとめであるため、問36「町会・自治会のあり方や、町会・自治会に関する区の施策、区との協働について、ご自由に意見をお書き下さい」という自由記述欄の回答をまとめたものである
- ・個人情報等に関しては留意して行う

【質疑】

委員長：回答率7割とは良い数字である。品川区の町会・自治会は、よくご協力していただいていると思う。今日は自由記述欄をひろっていただいた。いくつか論点があるかと思うので、意見交換しながらご意見を伺いたい。

また、今年度の到達点と来年度どういう方向でしぼっていくかについても考えていただき議論していきたい。

学識委員：アンケート回答3つめについて、自分自身も都営住宅に暮らしていたので、生活の面で密着をしていて共同です仕事が多かったという実感がある。公団の団地にも住んだことがあるが、そこでは関係が遠く感じられ違いを感じた。

町会・自治会関係委員：住宅公団では町会と同じで各棟当番制で町会にでてもらうのでよい。しかし、分譲や賃貸は管理会社が管理しているので、管理組合というかたちで理事がでていて、内部で駐車場の問題などは話し合っているようだが、内部での話は外にはでてこないで、自分のところに話はあがってこない。

そのため、民間のマンションには苦勞している。

委員長：分譲は法律上、管理組合はあるが、それを自治会に代替している。管理組合が自治会の機能を代替しているが、町会という扱いではなく町会・連合会には関わっていないのが現状なのか。

町会・自治会関係委員：管理人の方はでてくる。分譲のマンションのなかで雨漏りがあるからとか協議していることはあるが、直接町会のなかに入っているという意識はないのではと思う。

委員長：前回のお話のなかで仕事が増えている実感があるといっていたが、若者は町会・自治会の事業に関わりたがらないということだが、若者が「町会・自治会は必要だ」ということを理解すれば関わらざるを得ないと思う。若い人に声が届いていないのではないか。若者への訴え方や見せ方が課題なのではないかとアンケートをみながら思った。

それでは、これよりしばらくご自由に意見交換をしていただきたい。

町会・自治会関係委員：若い人は、年間を通して町会・自治会活動を働く気はないが、お祭では仕事を休んでまで参加する人もいる。

委員長：年間を通して肅々とかかわることが課題である。

町会・自治会関係委員：小学校の保護者の方々に対し、町会がどのようなかたちで協力できるか、問いかけている。

保護者の方に「役員」という名をつけると負担感があるので、予算を設けてなにか自由にやらせてもらえないか提案した。その例として、防災訓練に参加しているのは高齢者が多く、防災訓練への参加者に配布している乾パンが硬すぎるため、高齢者は食べづらいということで保護者の方に食べやすいレシピの考案をお願いしたところ、2種類考案してくれた。そのような協力の方向でもいいではないか。

委員長：すばらしいお話である。

学識委員：今の話で面白いと思ったのは、小学校の学区は複数町会であるため、PTAには幾つもの町会の方がいらっしゃるということになる。複数町会の合同企画として、子供を持っている世代に対して、新しい活動の位置付けができるのではないか。

町会・自治会関係委員：1町会だけで子供がどれくらいいるか統計をとっているが、ひとつの活動ができるような子供の数は少ない。学校にとりついていく町会が1町会であろうが5町会であろうが8町会であろうが、全般的に全員に向けてやろうという取組を行っている。なるべく町会の役員が学校に出向いていくということ去年からは始めている。PTAの方に餅つきのやり方を教えてほしいと言われれば、町会が学校に出向いてお手伝いをして、これらの活動を通してコミュニケーション促進をはかっている。

学識委員：PTAもいろいろ町会と同じように課題視されている。PTAも自発的ではなく強制加入となっている。今話を聞いていて、両方の力を出しあえると思った。

町会・自治会関係委員：以前、餅つきは自分の町会のみで行っていたが、現在は複数の町会と合同でやるようになった。

委員長：優れた取組みに感じる。

町会・自治会関係委員：地域によって異なると思う。私共の地区は 10 町会 3 自治会であるが、3 自治会は都営アパートで比較的高齢の方が多く印象だ。大きいマンションも町会行事に参加してもらおうといいのではと思う。大きい民間のマンションは連合町会に入ってもらったほうがコミュニケーションもとれて良い。そのために行政の方から世帯数などチェックしていただけないか。

当地区では、餅つきは町会ごとにやっている。若い人の参加も多い。自営業が多く、昔から住んでいる人が多いせいなのか、うまくいっているのではないかと思っている。

委員長：大きなマンションは連合に入っていないのか。

町会・自治会関係委員：町会ごとに町会費をもらっている。しかし、町会の行事には参加していただけていないのが現状である。

大きなマンションの多い東品川地域のように、各マンションの理事長に集まってもらい意見交換をしているという事例があるため、自分もマンションの理事長と直接話し合ってみて、町会の行事に参加してもらおうようお願いしようかと思っている。

委員長：町会全体、町全体としてよくなるためにはマンションの理事長に対して、町会長が自主的に直接お話しになっているということは良い活動だと思う。

町会・自治会関係委員：連合でもって餅つきをやる町会はいないのか。

町会・自治会関係委員：やっている町会もある。小学校でやる餅つき大会を連合が援助するということもある。

町会・自治会関係委員：餅つきを町会ごとにやっているが、隣の町会も同じ日にやっているというケースがある。町会に入っていないなくてもイベントごとに声をかけているが、若い人にはなかなか参加してもらえない。

マンションの役員は難しい。声はかけているが難しい。厳しいところでは、理事長の名前さえ教えてくれないマンションもある。

町会・自治会関係委員：小学校の行事やお祭で、町会があくまでも応援する立場で餅つきを手伝っている。

地域活動会議を開催し、地域の方々と交流する場としている。地域センターの職員、民生委員や高齢者クラブ、学校の先生、消防、警察などの団体（約 90 人くらい）で年に 1 回飲み会をする。校長先生もいるのでいろんな人と話し合うことができる。そこで、餅つきの話がでてきたことがきっかけで、我々が押し付けてやっているというわけではない。

町会・自治会関係委員：餅つきも人が集まらなくなってきた。

防災に関して、児童の参観日に防災訓練を実施したところ、参加者数 500 人（父兄が 200 人、児童 250 人）と成果があったので、今後やればいいのか。

委員長：防災についてどうか。

町会・自治会関係委員：総合防災訓練では 1000 人くらい集まる。単独の町会では年に 1 回。D 級ポンプの訓練は隔月。

町会・自治会関係委員：D 級のポンプを学校に集結させることを考えていただきたい。なにかあったときに、D 級ポンプを集結できるような仕組みを構築していただきたい。避難所となる学校で周辺からの火を食い止めるためにも是非ご検討いただきたい。

区関係委員：地区別の防災訓練で PTA の方に参加を呼びかけている町会はあるのか。

町会・自治会関係委員：ない。少年野球や少年サッカーの関係で参加してもらっている例はある。

区関係委員：仕組みについて。防災に関しては、地区防災協議会で町会を母体とした会をつくってもらっている。その会が防災のそれぞれの役割を検討し、訓練を日々やっていただき、地区ベースの防災に備えていただくという組織になっている。それぞれの地区防災協議会でこういう訓練をしようということになった時に、区や地域センターの職員も行って一緒にやらせてもらっている。

これまでにわかったことは、13 地区の各連合や連絡会ごとに、それぞれやり方、文化やカラーが違うということ。次の回に活かせるよう、良い事例は参考にさせていただきよう提案している。

他の地区においても活用できるようなものがある。それぞれの地区での情報交換等をしていきたい。

町会・自治会関係委員：防災関係は無いが、町会長は町を歩いて見るのがよい。ただ朝通学路に立っているだけでも住人と顔見知りになる。

委員長：アンケートのなかにもあるが、高齢者の見守りという話題についてどうか。

町会・自治会関係委員：不幸があった場合は、全て（葬儀に）出席するようにしている。そこで情報が得られ、見守りにもつながると思っている。

町会・自治会関係委員：民生委員の要介護者の名簿は区からいただいている。地域で高齢者を面倒見るということは、町会でかなりの人数が必要となるため、若い人がどのように町会に入ってもらえるかにつながってくる。

町会・自治会関係委員：高齢者について重要課題として位置付けている。長野の地震の際、助け合いを見てこれだと思い「顔の見える関係を町会で」を掲げてやっている。

高齢者クラブを復活したところ、区域内の住民全 1017 名のうち、293 名が 60 歳以上の高齢者なのだが、そのなかから 50 名加入してくれている。町会会館はできたが、そこにどう参加させられるかが今後の課題である。

高齢者に関して、防災訓練のことも課題がある。年 1 回防災訓練があるが、参加者は少ない。また、場所は学校なのに子どもの参加者は少ない。訓練の最後に参加者に 500 円のクオカードを配っているが、配布のときだけ来る人もいる。

委員長：老人クラブには、社会奉仕や友愛活動などがある。

区関係委員：高齢者クラブは減っても増えてもいない。会員数も横ばいである。

シルバーセンターを拠点にクラブをつくって、同じ趣味の人たちで発表会を開いているところもある。ただ、同じ趣味の人といっても、住む地域が異なると加入できないため、高齢者クラブの加入率にはつながっていないことは課題である。

町会・自治会関係委員：地区の外に引っ越した場合、引っ越したところのクラブには入らず、しかし元居たところにも入れないため、このことについて考慮いただきたい。

区関係委員：今後工夫する。

委員長：今日は品川区の良い面がたくさんだ。その他、お気づきの点でこういうテーマを考えなくてはいけないなどあればご提示いただきたい。

区関係委員：PTA の役員と 20 年以上前になるが関わりがあった。その方たちが町会の役員になっていたり、さまざまな活動をお持ちであったりと、地域によっては町会があって、その下に青少年対策地区委員がある。青少年対策地区委員になる資格の部分で、各町会の推薦をあわせて PTA から一校何名という形で推薦を受けて委員に入っている地域と、全く PTA が関係なくやっているところがある。PTA の若い力をうまく吸収していくようなシステムが、各 13 地区のなかで確立されるとゆくゆくは町会を担うという意識づくりができていいのではと思っている。

町会・自治会関係委員：うちはそうになっている。

委員長：30～40 代にちょっと無理をしてでも町会に入ってもらえることが重要である。昔は地域で活動する人材育成のルートがあった。それがなくなっている地域が増えている。

町会・自治会関係委員：行事の一つだが、小学生中心にやっているマラソン大会について、参加者は 1000 人ほどであり、それが子どもたちにとって一番大きな地域のイベントだと思うので何か活用できないかと思う。

委員長：最後に、本日の内容を整理する。町会が連携を呼びかけてつながりをつくりだすコーディネーター的な役割を担い地域団体間の連携をつくりだしている。町会がいろんな団体と連携していくのがよいのでは。それが加入に結びついていくのではないか。

地域をつないでいくということで睦や餅つきを切り口にできる。お祭りは大事である。

防災訓練はいろいろ工夫されていて、防災の基礎がきちんとできていると思うので、他の機関・団体と連携をしていただくことがよい。

町会がどうやって役立っているか認識されていないから若い人が加入しないのではないか。防災を切り口にしたら町会の権威もあがり、加入促進につながるのではないか。

地域福祉の課題について、優れた活動をしていると思った。

民生委員との連携、顔の見える活動、若い人とのつながり作りなど、結構地道にやっておられることに驚いた。

その他、役員の新陳代謝が課題として残っていると思う。

こういった方向性で今後の議論を進めていくのがいいのでは。

他の町会の取り組みについて他都市の事例と品川区の取り組みを比較した資料を次回以降活用してはどうか。

事務局から補足発言あればいただきたい。

事務局：高齢者クラブの話があるが、全国的にも活動が減退し、会員数も減少している。

そこで、ある高齢者クラブで会員が激減して大改革をおこなった事例を紹介する。

その高齢者クラブでは趣味の活動以外に地域貢献や5人以上集まればサークルができるということで、現在23クラブある。サークルにより、会員数が90人から850人となり、対象者はほぼ加入している。

また、予算配分の仕方が面白い。地域貢献活動をすると、地域活動券を発行してその券の集計をして後半は比例するような仕組みを導入しているのも大事な要素である。

委員長：今回は、私自身とても勉強になった。以上で第3回の委員会を終了する。

5. その他

事務局：次回第4回目の調査研究委員会は3月中旬以降を予定している。アンケートのまとめも次回ご提示する。次回開催にあたっては、あらかじめ学識経験者と論点を整理してから行う。

6. 閉会

以上